

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890700053		
法人名	医療法人社団 中野泌尿器科		
事業所名	グループホーム花ちとせ		
所在地	神戸市須磨区千歳町4丁目3番30号		
自己評価作成日	令和6年2月1日	評価結果市町村受理日	令和6年3月12日

※事業所の基本情報は、公表ウェブサイトでご覧いただけます。(このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSオオツチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	令和6年3月10日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 該当するものに○印 1. ほぼ全ての利用者の2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 該当するものに○印 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 該当するものに○印 1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 該当するものに○印 1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 該当するものに○印 1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 該当するものに○印 1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 該当するものに○印 1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 該当するものに○印 1. ほぼ全ての家族と2/3くらい 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 該当するものに○印 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 該当するものに○印 1. 天いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 該当するものに○印 1. ほぼ全ての職員が2/3くらい 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 該当するものに○印 1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 該当するものに○印 1. ほぼ全ての家族等が2/3くらい 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできない

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人社団という事で24時間医療の連携が図れている。看護師も昼夜問わず主治医の指示を仰ぐ事が出来て体調の異変など病院と連携し安心、安全な生活を送れるように支援に努めている。また、入居者様のご家族さまには常に「花ちとせ通信」にて送付させて頂いています。

【優れている点】24時間医療体制が整備され適切な医療を受けることができる。看護職員を配置しており、常に利用者様の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。特に血液透析の必要な方の対応が可能であり、数名入居されている。【工夫点】①一人ひとりの1日の暮し方や生活リズム等把握し、本人様の状態を全員で把握している。また日頃から話し合いの場をもち「より良い支援」について話し合っている。②緊急時の対応として医療機関に対し入院の目的をいち早く伝えるために「もしもシート」を作成し有効活用している。③コロナ禍の制限が緩和されているが外出や活動の再開に向け、ご本人様の要望を聞きながら外出レクなど計画し取り組んでいる。



# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己評価	項目	自己評価		外部評価
		実践状況	実践状況	
<b>I 理念に基づく運営</b>				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常時携帯している名札の裏に記載し各職員が理念を意識付け会議の際に復唱している。	運営理念を玄関を入った目立つ所に掲げ、又各職員が常時携帯の名札の裏に記載して理念を会議の時に復唱し実践につなげている。	次のステップに向けて期待したい内容
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に地域の方々を招き交流を図り、イベントに参加して頂くように以前は行っていたが今現在は休止している 買い物などは一緒に行く	以前は運営推進会議に地域の方々を招き交流を図り、イベントに参加して頂くようにしていたが今はコロナの為休止し、買物等を職員と一緒に出かけている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は桜まつりなどを行っていた 地域の方を招き認知症の方々と共に参加してふれあいの場を作っていたのですが今は休止している		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度運営推進会議を開き他事業者の方々地域民生員の方々を招いて意見交換している 入居者ご家族様も今期から招く予定にしている	二か月に一度運営推進会議を開催して他事業者や地域民政員の方達を招き意見交換を行いそこでの意見をサービスの向上に活かしている。今後の予定として入居者ご家族も今期から招く予定にしている。	事故数は、ヒアリング数は、アの表を作成し、事業所内の目立つ場所に掲げ実践することが望まれます。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域のあんしんすこやかセンターの方々の協力を得て意見交換している 須磨区グループホームA連合会に参加している	地域のあんしんすこやかセンターの方々の協力を得て意見交換し事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝え協力関係を築くように取り組み又須磨区グループホームA連合会に参加して協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準」における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待 身体拘束に関する施設内の研修を全職員に行っている またカンファレンス実践研修を行っている	全ての職員が高齢者虐待 身体拘束に関する施設内の研修を行い虐待や禁止の対象となる具体的な行為等の研修を職員全員で実施し、又またカンファレンス実践研修を行っている。	
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待研修と共に接遇研修を行っている 丁寧な言葉やケア方法の指導を行っている	虐待研修と共に接遇研修を行い学ぶ機会を持ち、丁寧な言葉やケア方法の指導を行い虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	



自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護 成年後見制度について外部研修に参加したり フォードバックし職員に周知している。	権利擁護 成年後見制度について外部研修に参加したりして学ぶ機会を持ち、フォードバックして職員に周知し活用できる様支援している。		
9	(8) ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用に至る迄に契約内容を説明し理解して頂けるように努めている 不明な点があれば信頼関係を築けるように心掛けています	利用に至る迄に契約内容を説明し理解して頂けるように努め、不明点があれば対応し理解・納得を図り信頼関係を築けるように心掛けています。		
10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前のようにご家族様に運営推進会議やイベントに参加して頂き交流の場を作って意見交換会をできる場を設けて行く	コロナ禍前のようにご家族に運営推進会議やイベントに参加して頂き交流の場を作り意見交換会をできる場を設けて運営に反映させて行く予定を立てている。		
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やフロア一会議で職員の意見を聞き議事録を作成し理事長に報告している 会議には職員の声を聞く場を設けている	運営に関する職員意見の反映として全体会議やフロア一会議で職員の意見を聞き議事録を作成し理事長に報告し会議には職員の声を聞く場を設けている。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回 人事考課を提出している 必要に応じて個人面談を行い直接話す場設けている			
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修予定を作成し 施設内の研修に取り組んでいる フォードバック研修として他職員への研修内容を報告している			
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議他のグループホームの会議にて意見交換を行っている 他事業所と交流を図り事業所向土でもっと交換できる機会を増やして行きたい			

自己第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	サービス提供前に面接し聞き取りを行いサービス開始後も担当者会議を行い、日々職員間でカンファレンスをし安心して過ごして頂く環境作りに努めている			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている	ご家族様の要望を最優先にサービス内容を考えケアプラン作成に取り組んでいるケアプランを更新する度に入居者様の状況を含めて理解を求めている			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等がその時「まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現段階での心身の状況を把握し日々接する職員同士で話し合い 今後のサービス提供について意見交換している			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の生活歴や現状を把握し できるだけ入居者様の意見を尊重し寄り添い対応するように努めている			
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「花ちとせ通信」で近況報告を行いご家族様が来所時には状況をお伝えしている なかなか来所できないご家族様とはお電話にて報告を行っている			
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の希望で外出して頂いている できるだけ一緒に過ごして頂けるように努めている	これまでの社会との関係を継続するため、電話など活用し、ご家族や知人とのつながりを大切にしている。面会制限が緩和され、ご家族と外出時に、買い物など一緒に過ごされます。できるだけ地域との接点をもち関係継続に努めている。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様か孤立しないように職員を変えてレクレーションを行う事で一緒に話し関係を築いて行けるように努めている			



自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご本人、ご家族様から相談などあれば真摯に対応し、できる限りの支援を行っている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子を観察し変化があればその都度カンファレンスを行い、個々に合ったサービス提供ができるようにご家族様との連携に努めている	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。表情など観察し、言葉にしづらい思いの真意を推し測り汲み取っている。本人がどのように暮らす事が最良なのかの視点に立ちカンファレンスを開催し話し合っている。		
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からの聞き取りやご家族様の協力を得て生活歴や性格など本人の現状把握に努め個別ケアに繋げている			
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録や申し送りでの現状把握を行い日々の変化を見逃さないように努めている			
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの見見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じてサービス担当者会議カンファレンスを開きご本人、ご家族様の希望を最優先にケア方針などその都度見直し計画を更新している	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握している。担当者会議ではサービス担当者や看護師など参加し介護計画を作成し実施している。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや個別に介護記録や伝達記録を記入し職員間の周知に努めている 変化があればショートカンファレンスも活用しより良いケアの実践ができるよう介護計画の見直しを行っている			
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の対応や書類の郵送は状況に応じて行っている。ご家族様の代理を行った時はその日のうちに報告し安心して頂けるように努めている			



自己	第三者	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて他事業所、地域の方々と意見交換を行っている これからも積極的に関わりを持って行きたい	実践状況		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、看護師の往診があり、毎日の状態を報告し必要に応じて受診し医療連携を図っている 状況に応じて地医院に受診し医療連携を図っている	本人様にとって馴染みの医師による継続的な医療が受けられるよう、また状況に適切な医療が提供されるよう24時間医療体制が整備されている。また週2～3回往診で主治医と利用者との関係性も構築されている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師がいて状態の変化を報告し必要な処置を行い指示を仰いでいる			
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は主治医 担当医が情報共有を行い連携を図っている 常時状態が把握できるよう管理者が情報収集に努めている	体調や些細な変化を見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。入院時は、主治医からいち早く医療機関に対して情報提供が行われる。「もしもシート」では利用者様の基本情報など作成し日頃から管理している。夜間緊急時など活用している。		
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時ご家族さまから看取りに関する同意を得ている ご家族様を交えての話し合いを行い希望に添えるように努めている 施設内研修で終末期ケアについて理解を深める事で 職員が不安なくケアにあたるように指導している	入居時の契約時には、「ターミナル同意書」及び「医療連携に関する同意書」をもとに説明し同意を得ている。できるだけ早期から話し合いの機会を持つようにつ努めている。納得した最期を迎えられるよう本人様や家族様の意向を踏まえ、主治医、職員が連携を取り、随時意志を確認し取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	24時間体制で主治医と連絡が取れ 指示を仰ぐ事ができる 緊急時のマニュアルを作り定期的に職員間で対応方法の確認を行い緊急時に備えている			
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている 以前は消防署の協力を得ていたが停止している 職員から災害が起きた場合の不安に思う事を聞き取り災害内容別に訓練している	年2回防災訓練を行っている 以前は消防署の協力を得ていたがコロナ時から停止し、職員から災害が起きた場合の不安に思う事を聞き取り災害内容別の訓練している。		



自己第三者	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36 (18)	○一人ひとりの尊重とグライバジーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやグライバジーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を行い、関わり方の見直しを行っている。個々に合った言葉かけを検討しグライバジー保護に努めている	援助が必要な時もまず本人様の気持ちを大切に考えた言葉かけをするようにしている。年長者としての敬意を払い、馴れ合いの中で本人の尊厳を無視した対応になつていないか日常的な確認と改善に向け取り組んでいる。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞き取り自己決定が出来る環境作りを励んでいる		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを乱す事なく、日々の話の中から希望を聞き出し、治えるように努めている		
39	○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	整容は入居者様と一緒にを行い、身だしなみを整えて頂くように努めている。特別な日々には口紅を付けて支援している。2ヶ月に1度訪問美容を利用している		
40 (19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の要望に応じて食事レクレーションを行い、家族様の協力を得て、最近はおしゃべりを行っている	カロリーの過不足や栄養の偏り、水分不足が起らないよう1日を通して必要な食事が取れているか。栄養バランスに配慮した献立で提供している。また食事を大切な活動の一つとして、その方のできる内容でお手伝いしている。また意向を聞きながら食事レクやおやつレクをメニューに取り入れている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に合わせた支援をしている	食事量、水分量は毎日記録に残し、日々の変化に注視している。声掛けを行っていただけるだけ自力摂取して頂けるよう努め、状態に応じてアセスメントをし、食事形態を変えて提供している		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月歯科往診の際に口腔ケアを行い、歯科医師に相談し、その方に合った方法で口腔ケアを行っている。定期的に歯科医師から口腔ケア研修を開催して頂く		



自己	第三者	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時チェック表に記録し、個々の排泄状態を把握しその方に合った介助を行っている	自尊心に配慮し、利用者様の様子から敏感に察知し、身体機能に感じ手を差し伸べている。できるだけトイレでの排泄を可能にするために排泄チェック表を活用し、本人様の生活リズムにそった支援を展開している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保 冷水や乳製品の提供 腹部マッサージ等を行い 便秘予防に努めている			
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイムングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望状態に合わせて 職員や時間帯入浴形態を変え対応をしている できるだけご本人の意思を尊重し 入浴を楽しんで頂けるように努めている	入浴したい時間帯など希望を聞きながら柔軟に対応している。1階機械浴と一般浴を備えた環境を活用し職員2名で見守ります。利用者様お二人が日常会話をしながらゆっくり入浴できます。同性職員による介護など心づきを察し配慮した入浴支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めず ご本人のペースに合わせて休んで頂いている 照明・空調・加湿の調整をこまめに行っている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の情報提供を行っている 身体状況の見逃す事なく 主治医に報告しお薬の調整を行っている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の暮らしの中で 楽しみや役割を持って頂けるよう個々の能力を把握し提供できるように努めている			
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物を通じて地域との関わりを持つてるように支援している 少数のグループに分ける事で外出レク機会を増している	気分転換やストレッチ発散のため外出場面を作り、短時間でも戸外に出る機会を設けている。屋上での昼食会や近隣への30分程度のお散歩など行っている、コロナ禍の制限も緩和され小人数での日用品のお買い物など外出レクを計画していきます。		



自己	第三者	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望やカにに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしていない 必要に応じて立て替えて必要な金額をお渡しし 職員と一緒に買い物を楽しんで頂いている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話している 定期的に手紙手紙を出す方がおられない為 年1回の年賀状を希望される方にお出し出来るように支援している			
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとつて不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は移動の邪魔になるような物は控え整理整頓を心掛けている フロアナーの飾りは季節ごとくに職員と一緒に作成し季節を意識して頂けるよう努めている	共有空間は移動の邪魔になるような物は控え整理整頓を心掛けフロアナーの飾りは季節ごとくに職員と一緒に作成し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の意思を尊重し 固定の席は用意していない 気の合う仲間とのコミュニケーションツールとして活用している			
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い入れのある物やご家族様のお写真やご家族様手作りした飾りを飾って頂き 無機質なお部屋にならないように環境作りしている	居室には思い入れのある物やご家族様のお写真やご家族様手作りした飾りを飾って頂き、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にも手作り表札を掛け 自室だと認識して頂けるよう居場所づくりを行っている トイレ等頻繁に使用する場所に張り紙をし自立支援に努めている			